

# 日本国際連合学会(JAUNS)ニューズレター 第2号

日本国際連合学会 (JAUNS)

理事長 明石 康

事務局長 横田洋三

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部研究室

電話 03-5841-3201 FAX03-5841-3174

◎JAUNSは、「日本国際連合学会」の英文名称 (Japan Association for United Nations Studies) の略です。

◎このニューズレターには、学会の活動や会員への皆様へのお知らせを掲載します。

◎学会へのご意見・ご質問などは、上記事務局またはEメール (yamadate@jia.or.jp) 宛にお願いします。

## 1. 第1回研究大会の開催

5月22日(土)及び23日(日)の二日間、東京・渋谷の国際連合大学3階国際会議場において、1999年度(第1回)研究大会が開催されました。研究大会は、「21世紀の世界における国連システムの役割」を共通テーマとして、総論、安全保障、社会・人道、経済・開発の四分野について、それぞれ二名ずつが報告を行い、フロアと活発な質疑応答が行われました。研究大会には、2日間で会員88名、傍聴者74名、合計162名が出席しました。二日間のプログラムは以下のとおりです。

第1日:5月22日(土)

第一セッション テーマ:21世紀の世界と国連システム

座長 青山学院大学教授 渡辺昭夫

報告1:「21世紀の世界と国連システム-16人委員会の提言案を中心に」

フォーリンプレスセンター理事長 波多野敬雄

報告2:「21世紀の世界と国連システム-日本の役割を中心に」

国際連合日本政府代表部大使 山崎隆一郎

第二セッション テーマ:安全保障の分野における国連システムの役割

座長 国際連合大学学長上級顧問 佐藤英夫

報告1:「国連の集団的安全保障制度の意義と問題点」

大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授 星野俊也

報告2:「国連の平和維持活動(PKO)の意義と問題点」

大阪学院大学教授 香西 茂

第2日:5月23日(日)

第三セッション:社会人道分野における国連システムの役割

座長 中央大学教授 内田孟男

報告1:「人間の安全保障の観点から見た国連システムの改革」

外務省国際社会協力部長 上田秀明

報告2:「人権・人道の分野の国連の活動と改革の動き」

宇都宮大学助教授 今井 直

第四セッション:経済および開発の分野における国連システムの役割

座長 東京大学教授 横田洋三

報告1:「開発援助におけるブレトン・ウッズ機構の役割と問題点」

国際基督教大学教授 山本 和

報告2:「開発援助における国連開発計画(UNDP)の役割と問題点」

亜細亜大学助教授 秋月弘子

また22日の夕方には、国連大学2階ホールにおいて、懇親会が催され、明石理事長の挨拶と今回の研究大会開催にあたり、会場の提供を含めてご好意あるご協力とご配慮を頂いた国連大学のヴァン・ヒンケル学長からもご挨拶を頂戴しました。その後、約一時間半の懇談会で、報告者を囲んでさらに議論を深めたり、会員相互の親睦が図られました。

## 2. 第2回理事会の開催

研究大会初日の屋休み、国連大学8階会議室において、第2回理事会が開催されました。

### (1) 新入会員の承認

これまでに入会の申し込みをされた方につき、理事会での承認が行われました。入会を承認された方のお名前は次のとおりです（順不同、敬称・所属略）。

石塚勝美、岩佐洋子、角川智子、高橋慶太、宅見義昭、辻本哲平、萩本直樹、  
則武輝幸、堀田桃子、三好正規、村瀬健介、山崎真紀、猪又忠徳、岩崎允彦、  
小田信昭、勝間 靖、笹島雅彦、林 宏、林 司宣、松隈 潤、川村真理、  
水野 均、富田麻里、佐藤安信

なお、これまでは学会設立直後ということもあり、本年3月末までに提出された入会申し込みについては推薦者がいなくても入会を認めるという措置を取ってきましたが、今後は、規約に従い「理事を含む2名の会員の推薦」のを求めることが理事会で確認されました。

### (2) 学会誌について

理事会では、本学会の学会誌のあり方について総論的な意見が交わされ、具体的な作業は編集委員会（編集主任・内田孟男理事）において議論することとなりました。

## 3. 「国連2000年総会への提言プロジェクト」について

日本国連学会では、外務省の協力も得て、国連2000年総会において事務総長が提出する「事務総長報告」の作成段階に、「日本の学会として政策提言を行う」ことを目的としたプロジェクトチーム（座長：横田洋三理事）を発足させ、3月に箱根で、また、5月には東京でワークショップを行い、具体的な提言の取りまとめを行ってきました。

現在、提言の作成は最終段階を迎え、字句の調整と英訳の作業を経てから、国連事務局に提出されます。会員の皆様には、提言が完成次第、内容をご報告します。なお、このプロジェクトの実施にあたっては、広島市立大学広島平和研究所より多大のご援助を頂戴しました。

## 4. 学会費納入について

昨年10月に本学会が設立された時に会員となられた方の一部から、「第一年度(1998年10月から1999年3月まで)は、学会としての活動を行っていないので、会費納入を免除して欲しい」との要望が事務局によせられました。

この点については、設立總會の際、皆様にもお諮りし、ご了承いただきましたが、学会設立にあたっては、事務用品の購入や設立總會の開催などに相当の経費を要しました。学会の順調な発足と円滑な運営のために必要な費用ということでご理解下さいますようお願いいたします。なお、会員の皆様にご負担いただいた会費は、学会の活動充実のために、引き続き適切かつ有効に活用していく所存でございます。

## 5. 「入会申込書」について

「友人が入会を希望しているが申込書はどのようにすれば入手できるか」といったお問い合わせが事務局に多数寄せられております。本学会は研究者のみならず、国連に関連する実務者や国連研究に関心のある一般社会人の方々にも広く入会を募っておりますので、入会申込書が必要な場合には、上記事務局宛にご連絡下さい（Eメール宛でも結構です）。